

ドリームスクールへの期待

資料 3 - 6 - 1

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 教授 三友 仁志

1. 点から面の展開へ

- a. ネットワーク効果、規模の経済効果の追求
 - ー 全国の理解ある自治体が標準化されたシステムを先進的に活用し、点が結ばれることによって面的な展開が図られるべき。隣接地域への展開は意外に難しい。
- b. クラウド＋標準化されたシステムは必須
 - ー カスタマイズしないことで、ネットワーク効果、規模の経済効果を実現
- c. 学校のインターネット環境の整備が必要
 - ー 世界につながる

2. ICT成長戦略に貢献できる人材を創る

- a. 社会実装を前提としたプロジェクト
- b. 実験のための実験では無意味相応の地元負担も視野に入れる
 - ー クラウドでは、規模の経済性が働き、
- c. 都市部ばかりでなく、過疎地域においてこそ、活用の価値がある

3. 目標を設定し、達成までのロードマップを作成

- a. ICT活用の効果を短絡的に求めない

4. 「校務支援システム」と「ICT授業」は学校の情報化推進の両輪 (宮古島市の経験から)

- a. 校務支援は先生の事務負担軽減に貢献⇒ICT活用のインセンティブ
- b. ICT授業のためには、一定のリテラシが必要
- c. 校務支援システムに慣れることで、先生のリテラシが向上
- d. ICT授業への抵抗感が低減